

品質試験報告書

試験番号 BHGZ21120244 -1

2022 年 1 月 4 日

殿

ご提出の試料に対する試験結果は下記の通りです

BOKEN

一般財団法人 ボーケン品質評価機構

広州試験センター

SGS-CSTC Standards Technical Services Co., Ltd. Guangzhou Branch

広州市经济技术開発区科学城科珠路198号2楼

TEL 86-(0)20-8215-5606

品名 : GALAKURO PU GAMING CHAIR

品番 : WB-8743

〔試験項目〕

1. 座面の耐衝撃性試験
2. 座面の静的強度試験
3. 背もたれの静的強度試験
4. ひじ部及び頭もたせの静的水平力試験
5. ひじ部の静的垂直力試験
6. 座面の耐久性試験
7. 背もたれの耐久性試験
8. 背もたれの耐衝撃性試験
9. 背もたれの破壊強度試験

〔提出試料〕



処 理	登 行 担 当 者	黎舒敏	登 行 責 任 者	
--------	-----------------------	-----	-----------------------	--

本試験結果はご提出の試料に対するものであって、荷口を代表するものではありません。
本報告書の全部または一部の無断転載・転用は固くお断りします。
公印の無い報告書は正式なものではありません。



品質試験報告書

試験番号 BHGZ21120244 -2

2022 年 1 月 4 日

試験項目	試験方法/判定基準	試験結果	評価
1 座面の耐衝撃性試験	JIS S 1203:1998 7.10(区分3) 座面の上に規定の発泡体を置き、負荷位置決めジグで決まる座面負荷位置に、高さ180mmから座面衝撃体(直径200mm、質量25kg)を繰返し10回自由落下させる。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	座面負荷位置 : 異常認めず。	○
2 座面の静的強度試験	JIS S 1203:1998 7.1(区分3) 負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置及び座の前縁から100mmの位置に当て板を介し、1300Nの力を10秒間10回加える。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	座面負荷位置 : 異常認めず。 座の前縁から100mmの位置 : 異常認めず。	○
3 背もたれの静的強度試験	JIS S 1203:1998 7.2(区分3) 後方の脚にストガを当て、負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置に1300Nの垂直力を加える。負荷位置決めジグによって決まる背もたれ負荷位置、または背もたれ最上部から100mm下の位置のどちらか低いほうに当て板を介し、560Nの垂直力を10秒間10回加える。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	異常認めず。 負荷位置 : 負荷位置決めジグ位置 背もたれの相対的たわみ 1回目 : 0.15 10回目 : 0.16	○
4 ひじ部及び頭もたせの静的水平力試験	JIS S 1203:1998 7.3(区分3) 試験体の両側のひじ部で、最も破壊しやすい位置の内側に局部当て板を介し、400Nの外向きの力を10秒間10回加える。いすの最上部に頭もたせがある場合には、300Nの力で両方の頭もたせに対し、上記の試験を繰り返す。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	試験箇所 : ひじ中央部 異常認めず。	○
5 ひじ部の静的垂直力試験	JIS S 1203:1998 7.4(区分3) 左右いずれかのひじ部上面で、最も破壊しやすい位置に小形座面当て板を介し、800Nの垂直力を10秒間10回加える。試験体が転倒しそうであれば、力を加える側の反対側の座面につり合わせのおもりを加える。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	試験箇所 : 向かって右肘中央部 異常認めず。 転倒防止用のおもり : 10kg	○
6 座面の耐久性試験	JIS S 1203:1998 7.5(区分3) 負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置に座面当て板を介し、950Nの力を毎分40回転を超えない速さで、50000回繰り返す。試験の初回及び最終回の当て板の最も低い位置の差(試験中の座面のたわみ)も記録する。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	※座面の耐久性試験と背もたれの耐久性試験を同時に実施。 異常認めず。	○
7 背もたれの耐久性試験	JIS S 1203:1998 7.6(区分3) 後方の脚にストガを当て、負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置に950Nの垂直力を加える。負荷位置決めジグによって決まる背もたれ負荷位置、または背もたれ最上部から100mm下の位置のどちらか低い位置に、背もたれ当て板を介し、330Nの力を毎分40回転を超えない速さで50000回繰り返す。 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	座面の耐久性試験 試験中の座面のたわみ : 11mm 背もたれの耐久性試験 負荷位置 : 負荷位置決めジグ位置	○

本試験結果はご提出の試料に対するものであって、荷口を代表するものではありません。
本報告書の全部または一部の無断転載・転用は固くお断りします。
公印の無い報告書は正式なものではありません。



品質試験報告書

試験番号 BHGZ21120244 -3(完)

2022 年 1 月 4 日

試験項目	試験方法/判定基準	試験結果	評価
8 背もたれの耐衝撃性試験	JIS S 1203:1998 7.11(区分3) 前脚をストッパに当て、背もたれの最上部の外側中央、または背当てがない場合は座面の後縁の中央を、210mmの高さから落下する衝撃ハンマーによって打撃することを10回繰り返す。 ----- 各部に破損、緩み、機能に影響する変形等の異常がないこと。	異常認めず。	○
9 背もたれの破壊強度試験	依頼者指定の方法による 後方の脚にストッパを当て、負荷位置決めジグによって決まる負荷位置決めジグによって決まる背もたれ負荷位置、または背もたれ最上部から100mm下の位置のどちらか低いほうに当て板を介し、外向きの力を加える。各部に亀裂、破損及び使用上支障のある変形が生じる時の力を測定する。なお、試験機の性能上、2450Nを上限とする。	1800Nにて、座面と背もたれ連結部破損が認められる。(写真1)	—

特記事項

- ・背もたれの破壊強度試験における指摘事項は以下の通り。



(写真1)

